# 参考資料:代表的な資産配分モデルと運用イメージ

みなさんがご自身の年金資産を運用される際、どのように運用商品を分散したらよいかの参考となる、代表的な資産配分モデルをご紹介いたします。インターネットサービスの初回配分シミュレーションとあわせて、自分にあった資産配分をご検討ください。

\_\_\_\_\_



リスク・リターン





#### 「とにかく収益は大きい方がいい」

- 積極的に収益を狙う運用を目指す場合
- 国内外の株式を多く組み入れるが、 分散投資でリスクを抑えることがポイント

【対象とする年代イメージ】 20~30代



国内株式型:30%

外国株式型:20% 株50%

国内債券型:30%

■ 外国債券型:20%



### 「ある程度の収益は目指したい」

- ・インフレ率を上回る運用を目指す場合
- 国内外の株式、債券をバランスよく 組み入れることがポイント

【対象とする年代イメージ】 30~40代



国内株式型:20%

外国株式型:10%

国内債券型:60%

外国債券型:10%



株30%

### 「リスクを抑えて効率的に運用したい」

- インフレ率+αの運用を目指す場合
- もう少しリスクを抑えたい時は株式 の割合を少し減らして調整する

【対象とする年代イメージ】 40~50代



元本確保型:100%

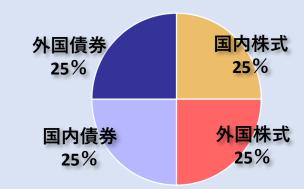


#### 「金利は低くても貯めておけばよい」

- ・貯めることを目標とする場合
- 運用でふやすのではなく、その他の 方法で積立などをして将来に備える

※資産配分モデルは資産配分の考え方の参考例としてご紹介しておりますので、必ずしも同じ配分にする必要はございません。特定の運用方法や運用商品への配分を推奨するものではありません。運用商品を決める際には、ご自身の判断で行って下さい。

#### ■ 日本の公的年金はどのように運用している?

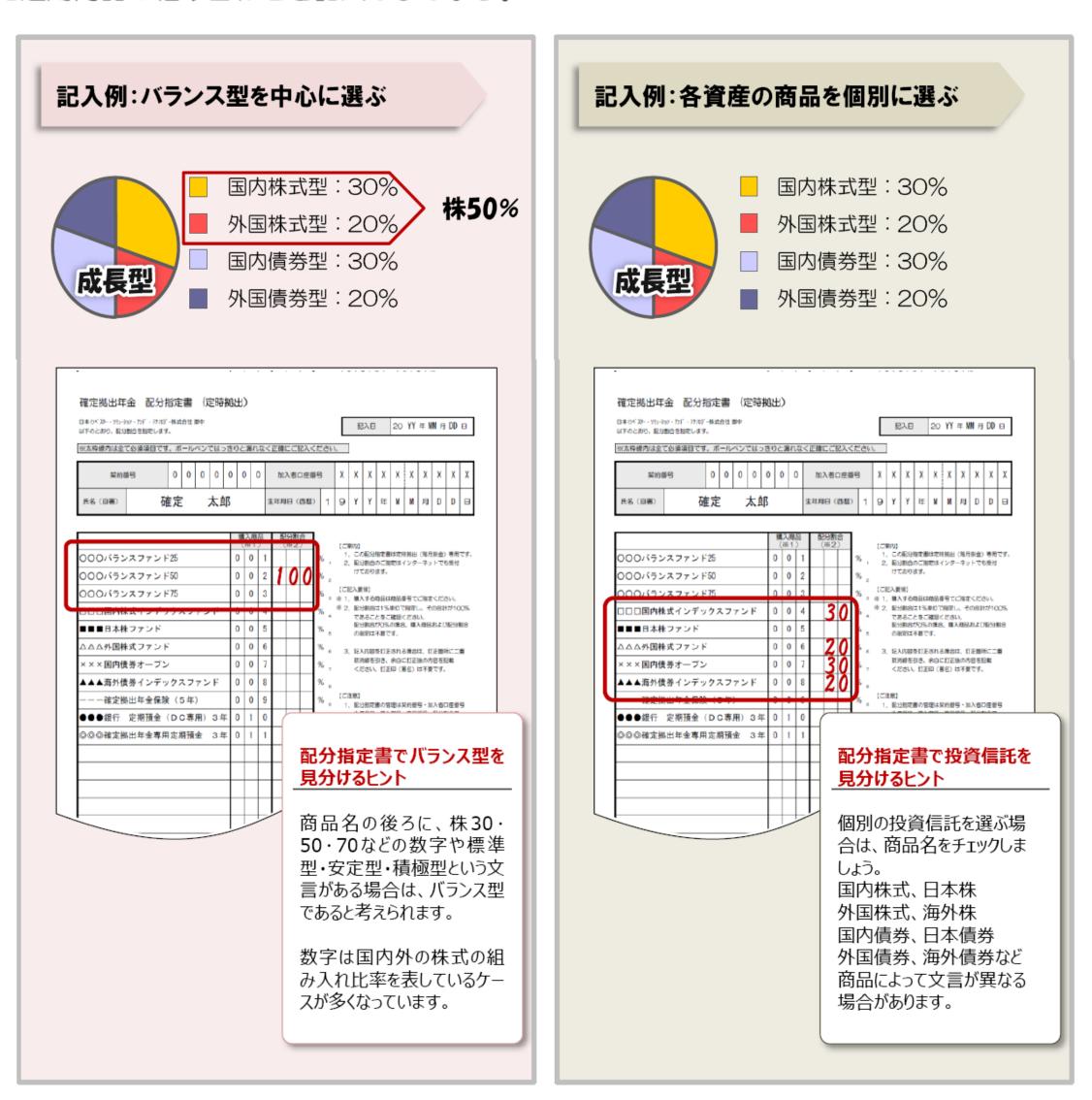


日本の公的年金制度である国民年金や厚生年金の積立金は、GPIF(年金積立金管理運用独立法人)が運用しています。 2020年4月より、運用目標を満たしつつ、最もリスクの少ない資産配分とするため、国内債券の比重を下げて、外国債券の比重を高めました。

※年金積立金管理運用独立法人(GPIF)ホームページより

## 配分モデルを参考に運用商品をあてはめて、配分指定書へ記入しましょう

商品ガイドやインターネットサービスで、それぞれの運用商品の詳細を確認し、自分にあった運用商品の組み合わせを記入しましょう。



■商品ラインアップに国内株式型、外国株式型、国内債券型、外国債券型、元本確保型の商品が複数ある場合 資産配分にあわせて1つの商品を選ぶか、複数の商品を選ぶかは、自由に決めることができます。